胡蝶のゆめ

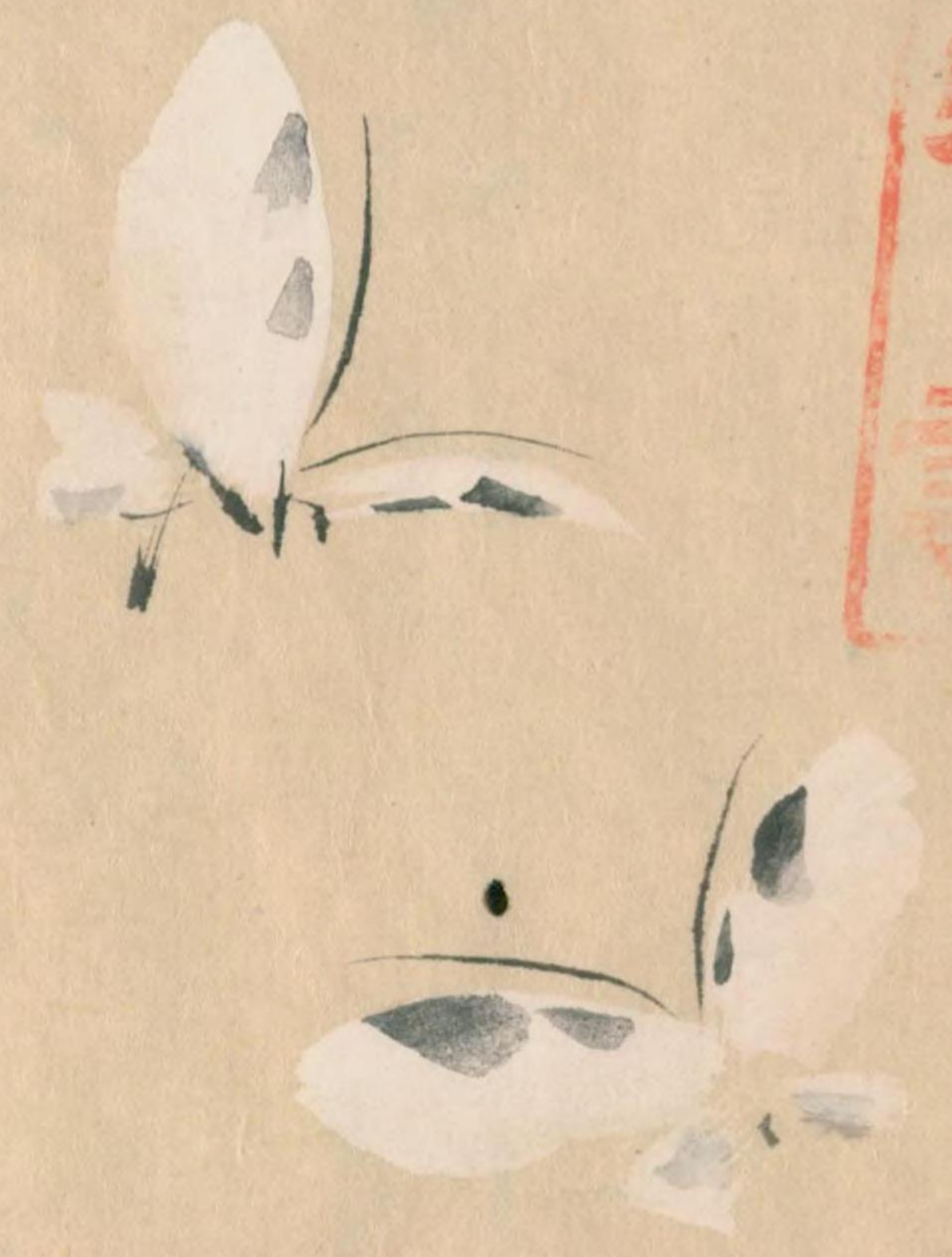
860
34

帝國圖書館藏

青緑書屋

860-34

下總崎房
秋葉孫兵衛藏書



金斎筆

秋葉義之

ガラス使用

栩然り自を喜知
月爲芳只殺何云歴
蹊飛花書夢帖
讀之菴隠高題

胡蝶のゆめ

帝國圖書館藏

むかし荘生こてふのゆめに物化をさとり。よろづのものおのづから大小わかちあることをつまびらかにして。七篇の書をあらはし。乗御游の天德をのべ尊聖安分のむねをおしへり。乗ハ天地の自然にしたがふなり。御ハ氣運の変に應ずるなり。游ハ無窮の化にあそぶなり。これハ全德の聖人にて。

その廣大ハ天地なり。その高明ハ日月なり。幸に世
にいでゝハ天下萬世の師表となり。その身ハ不死の
道を得たまひ。登假ののちハ通明の玉座にありて。
あまねく國土を照覧し。現に上天にましませど。
聖人ながく死しのかんゆへに仲尼曰。死生亦大矣。
而不得與之變。雖天地覆墜。亦將不與之遺。ところ也。
よく七篇の書をよみて。道の真情をさとる人ハその
不死を信ずべし。勿論七篇ハ寓言にて。あるよふなれど
その意をのぶれバ。そのことばをもてあそび。その
實をうる人をよく書をよめる人といふなり。
あながちにことばになづめバ。讀書のせんハ
なきものなり。よくよみよくおもふべきこと也。
大聖人の天をさとり。その徳に感ずべし。さてその
おしへにしたがひて。わが分限に逍遙し。その業を

つとむるときハ。天(てん)よりうけたる年(とし)をつくし。親(おや)に孝養(かうやう)もこゝろにやすくのせ。吉祥(きちじやう)も来(きた)るべし。もとより天命(てんめい)賦与(ふよ)のみこのよいでんことぞ。なりがたきこともの たゞるなと。学(がく)をこのみ坐(ざく)にありて。跂望(きくばう)のこゝろを生(しやう)ずるゆへに。身のわざはひもまぬくことなり。ひとへに聖人(せいじん)の天徳(てんとく)をあふぎ。大道(だいだう)のやすきをふみしこ。尊(そん)聖(せい)無事(ぶじ)の人(ひと)となれども。おのづから乗御(じようぎよ)のとくにかなひ。聖人(せいじん)化中(くハちう)の人(ひと)となりてこれ無窮(むきう)の游(いう)にしたがひともに死せざるの域(いき)によべる。この境界(きやうがい)にいたりては。悟道(ごだう)の人(ひと)にあらざれハ信(しん)じがたくさとりがたし。老子(ラウシ)ノ曰(イハク)上士(ジヤウシハ)聞(キイテ)レ道(ミチヲ)勤(ツトメテ)而行(オコナフコレヲ)レ之。中士(チウシハ)聞(キイテ)レ道(ミチヲ)若(ゴトク)レ存(ソンスル)若(ゴトシ)レ亡(ナキガ)。下士(カシ)聞(キイテ)レ道(ミチヲ)大(オホイニ)笑(ハラフコレヲ)レ之(ザレバ)。不(ワラハ)レ笑不(ズ)レ足(タラ)二以(モツテ)為(スルニ)一レ道(ミチト)とあるハ。げにさるべきことにこそ。予(よ)父祖(ふそ)のこゝろざしをつぎ。研経(けんけい)のいとまに老荘(らうさう)の書(しよ)を

よし。これをいにしへの。詩賦歌客ともにたくらへ。
文意を時賢にとひ。玄旨を竹扉にかくしける
さきあしさ。いくさてし此ゆふべなど屈陶諸子の詩
賦までもあらぬをとりくハ。これをよみて。悦をなし
やり。興をもそへ。まことをとめに應じてハ。ひとのさとめふ
も。よろてきらせしに。荘生の意の。尊聖安分ゟ
に。帰するををげし得てより。とみるに帙をうつし。
たこをかへぬるもをかし。さきごろ撃柝をのがれて
より。はづかに草をもてあそび。読書をもて。菴の名
となし。儒を業としてすぎぬれば。これかれ
の書かれこれの書をよみて。こゝの世の友の。おほき
をわかつも。始にそのふに。あそぶ我は。まことがきの分と
ともあらさりけめ。てとに危言のあぢごやうなるハ。
あらき人海の波濤をわたらり。天命をまつたく

さる。福禄寿（ふくろくじゆ）老（らう）の名うしなひたり。

春風のさそへることのおもしろにハ
ゆめまことてふとなりてなゝびきぬ。

老子（らうし）のいへる谷神（こくしん）。荘子（さうじ）のいへる真君（しんくん）。胡家（こか）のいへる佛性（ぶつしやう）。これハそもいかなるものぞ。谷神真君（こくしんしんくん）を字（あざな）して。道（だう）といひ。かゝる造物（ざうぶつ）といふ。佛性（ぶつしやう）を字（あざな）して。主人公（しゆじんこう）といひ。かゝる本来（ほんらい）の面目（めんもく）といふ。谷神真君（こくしんしんくん）を字（あざな）して道（だう）といひ。造物（ざうぶつ）といふハ。自然（しぜん）の[illegible]をこつるなるべし。佛性（ぶつしやう）を字（あざな）して。本来（ほんらい）の面目（めんもく）といひ。また主人公（しゆじんこう）といふときハ。ふかろよりの。ゆまろうとふかて。あらざりしめ。胡子（こし）の禅（ぜん）を学（まね）びて。佛性（ぶつしやう）を見る。把鼻（はび）関捩子（くわんれいす）といへるものありて。祖々（そゝ）傳来（でんらい）して。失墜（しつつゐ）せざれ。老荘（らうさう）の書（しよ）をよみて。その道（だう）をあきらむるにハ。まづこの大疑団（だいぎだん）を発（はつ）するにこそ。

胡家の禅を学びてハ。見性成仏の人となり。老荘の書をあきらめてハ。尊聖無事の人となること。胡家の禅をまなびてわるさとりに悟りそこなへバ。剛愎不遜の野狐となり。老荘の書を見てこゝろえあやまれバ。異風異様の異人となる。かれこれともにおそるべし。予いとけなきころ。上祖法尓翁の志をつぎて。禅をまなび。法語録なとよみて。了證禅尼とともにその道の智識とも参じ。ちかくて入るべき道とこゝろざし。すでにもやゝく。ことはその語録とものなかにハ。老荘の意と紛する處あまたみられ。これうたがはし。その意をとらずともあめて。荘子蹈をつゞらし給ふし。大聖孔夫子の道をまなびて。衣食せる家の老荘胡家の書をよみて。その道を談ずるにいたるも錯なる

ガラス使用

いさなれど老荘の書ハ。家風ありて。はやくより
よみ来れり。その佛法といへるもふるく
皇國のいにしへよりわたりこしかど。尊崇し
あひ。ろしことき
公此おきてはもさかりに此法度ありて。わきも
先祖より。禅をもて。家の宗旨とはなれきたりぬ。
されば例なきこの世にすべき胡子の名をうけて。かゝげ

ぐもつをも。たむけまいらせ。その語録をよみてハ。
老荘のこゝろよへるをもてあそびられ。唐め
かしう。詩紙の料にあつべきをよろこびてぞ。
荘子と志を同しうして。あそへるも。遂に維摩
に心酔して。身を墨染にかへられし。摩法師
をもむすびらん。たゞいつのよをもすてありきまうす。
いとふとなしのこのられがなれど。おのづから無事

ガラス使用

ふして。煩(わづら)はしきこともなく。もとよりまづし
されど。たくはへしことがあとくもなく。作(ざく)つとな
けきど。これがしもいふとくもなし。くれなんの
無一物(むいちもつ)の境(で)は。すこしこのなんへりと おもふなさと
もくさく。禅(ぜん)和(な)ぞくふるも。もんべなし。聖人(せいじん)も
時世(ときよ)ぞと。こゆるしのひりん。
錯(さく)や錯(さく)儒者(じゆしや)もそそして 達广宗(だるましう)

あさまこのうんてしれさ穿鑿(せんさく)
聖人(せいじん)は人(ひと)にして天(てん)なり。ゆへにそのおしへはたがはず。
昂天(するでそらてん)またたがふなり。天(てん)にしたがふて。神仏(しんぶつ)をいのれば。
神(かみ)はもとよりうけぬなれど。仏(ほとけ)はすくふと。すらし
のふのこと。さかる天(てん)がたもまふは。たゞひきよめりきて。
弘誓(ぐぜい)の舟まこと。うこのるべし。罪(つみ)を天(てん)まうれば。いなる
ところなし。と大聖人(だいせいじん)は佛(みほとけ)をうれし。おそてるべし

つくぬひべし。ゑせぢゑもて。学者のさかしだけする
ものハ。孟子のいはゆる郷原の賊にて。聖人ことゝふ
にくゝめる人ハ。罪人中の罪人にて。いきてハ禽獣
に遠からず。死してハかならず奈落なるべし。

あさましきことのよの人のなまぶふ
まよへるものをくゝきのちれよ

右ハ富田老人のもとめによりて。婦人女子の
ためにゑり。老人ハ甲州上野原の人にて。禅
荘子に志ふかく。また心学をまねびて。その
師なりける永言舎簡文舎の生徒にも。
つねにまじはりあそぶといふ。
天地の正しきに乗。六気の変に御。以て無窮
に遊の語に。荘生聖徳をのぶるの綱領にして。七
篇の書ハ。これ二つのとくを主張してとける

ガラス使用

ものなり。郭象が註す。至徳の人。彼我を玄同する
ものぞ。逍遥といふ。林氏の周にも逍遥遊の本旨と
見えたり。されど通篇三徳を主張することを
いへる書を見ざりしが。ゆめにやありけんうつゝにや
ありけん。もろこしわき義九天にあそび。玉京の臺
にいたり。秘府の仙書を見けるに。金編玉軸架
をかじへてたかさをくらべて。おさめ老荘諸

家の書はいへりても。諸解注疏あまたつたへり
それがなかに。陳明卿が批點本の荘子といふを
見ける其の乘御游の。くだりのかしらに朱
をもて。主張の二字を註しければ。いよゝ鄙見の
あやまらざることをさとりき。この書は塵世
につたへて。わきも一本を得てければ。人間もおの
づからところのどけく。几上の臺ならしぬ。

その三。乗御遊（じようぎよいう）のこゝろをよめる。

花はよしの月はさらしなにかえて
いくよつきせぬながめなるらん

莊子七篇大意

莊生當衰世。負志氣。洛誦聖經。継之以老子。學嚴人天。識窮遠大。後自出一機軸。著書七篇。以喩其旨。于筆大。而寓意微矣。若其立言。與孔子錯。與老子錯。錯而不戾。乃以錯了其眞為。夫覆載之大。群類之冨。變之所之。之之所會。此彼有畛。及靡莫止。聖人幸出于其間。與化為體。無為

ガラス使用

之德。使物不疵癘。於是乎。群國治焉。衆庶寧焉。後人或餔其糟粕。甘其粃糠。以蒲柵之資。跂松柏之用。豈不窮乎。此讀書不明之過。而不自量之甚者也。讀書明則知其聖。知其聖則知其天。若夫知正生之聖。非雕蟲據梧之所能及。而安分事聖。則以保身。以事親。以盡年。莫甚難矣。莊生憫人徒為文字觀。而不知其實焉。故明得性之分。說来御之游。示之以自牧之道。其說雖若多端。然要且歸尊聖安分。其為人之切。雖旨微言狂。斯知仁矣。雖與孔子錯。與老子錯。固無害為莊生也。逍遙游。說大小之變自爾之適。以明乘御之游。蓋聖人之性也。齊物論。說冥合之德與化為一。以明乘御之覺。蓋聖人之明也。養生主。說緣督之法。保全之術。以明来御之經。蓋真

ガラス使用

人之正也。人間世説世態之險。無為之應。以明
秉御之達。蓋與人之衡也。若德充符。則和德之
大。物之所歸。是秉御之至。而至人之成者也。若
大宗師。則知天知人。蓋人而天。是秉御之真。而
至人之精者也。若應帝王。則至德之治。自爾之
化。是秉御游之神。而至人之盛者也。苟非性則
不誠。故曰小知不及大知。非明則難知。故曰有

善

大覺而知大夢。非經則不正。故曰緣督以為經。
非權則不達。故曰天下無道。聖人生焉。道成而
物從之。真精而至坐忘。德全而民不知。此其成
己成物。兼能天下。而后聖人能事畢者。欲峻乎
其德。浩乎其天。莫焉且焉。自非至至者。孰能與
於此。故要其明經事聖。直游於得性之公。而不
羨欲焉。且養生主人間世二篇。殊為世民。多致

ガラス使用

意焉。讀者審諸。晉唐而降。附注頗多。各從所見
而説不同。此彼紛々。于今無窮。且藝園玩古之
士。如桑林參玄之徒。極深研幾。皆求之於此書。
而殊方同得。愈挹愈有。嗚呼大矣哉。懿愛玩數
年。僅知旨趣之所歸。故今忘陋盡説。以欲問世。
若其所論。固不出内篇外篇之為僞。人或知之
故不復贅。

胡蝶の画ひとつ詩一首このかぜをよくさとれば心ひとつくね
あはせてなくさうじのこといはんとてらうしが家のことまで
といひいでこのついでにはふをうしほどとおほかることをも
えしのびとゞめずまゝ和ぶみのかな詩にまれからうたにまれから
まあたらしきあるがなかにこやさうじのことばにこのよへりとおもふ
ところ〳〵あはれなるをみつゝしきりせしまゝかうれ〳〵いつ
はんとおもへどひとつらかにかくつしきくる人こゝろなぐさめかみ

ガラス使用

860
34

5670

七篇のかぎりにしをあつめたるのさびしきをぐてみちぬの道つふ
つゞりに篇二十あまりもむろさのかぎりにあつめをくべくなん
天保己亥之秋　淺艸菴追高誌記

小川高堅書

ガラス使用